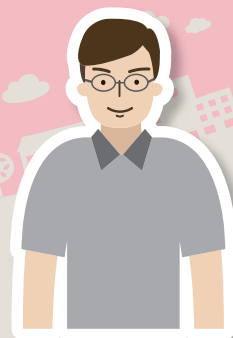
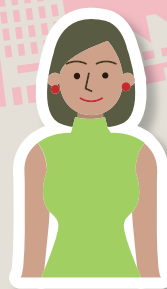
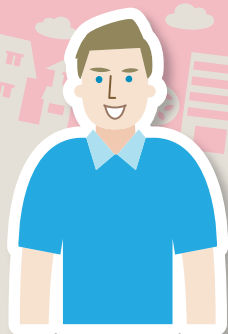
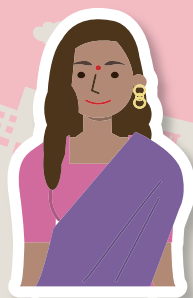


神奈川県内の高校等へ

講師を派遣します!

実施校
募集

無料で



講演会やワークショップなど、
国際的に活躍する講師・留学生を招いた企画はいかがですか？

「多文化理解」

国籍、民族、言葉や文化の異なる人々が、
互いの文化的な背景や立場の違いに理解を
示し、より密接に関わり共生していけるよう
なことを想定しています。

関連する分野 国際理解教育、多文化共生など

「国際教育」

国際社会において、地球的視野に立って行
動するための考え方や能力を育むための教
育活動全般を想定しています。

関連する分野 人権教育、開発教育など
オンライン講演・ワークショップが可能



オンライン対応

はじめてのオンライン講演会でも安心。
事前打ち合わせから当日の配信まで財団スタッフがサポートします。



公益財団法人 かながわ国際交流財団
Kanagawa International Foundation

主 催 公益財団法人 かながわ国際交流財団
後 援 神奈川県教育委員会、一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

かながわ国際交流財団（KIF）は、「世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川」を目指し、グローバルな視野を持ち、共生社会をつくる人材の育成や、県内における多文化共生の推進などを目的とした事業を展開する神奈川県所管の公益法人です。

そして第3期中期計画（2021－2025年度）の基本目標として「ちがいを豊かさに～多文化共生社会“かながわ”に向けた人づくり・地域づくり」を掲げています。

一人でも多くの青少年が、異なる国の文化や状況について関心を持ち「世界の入口」に立ち、また、多様な文化や言語をもつ人たちと、より密接に関わり共生していけるよう、各種プログラムの企画相談・講師派遣を通じて、高等学校等の国際教育をサポートしています。

実施概要

神奈川県内の高等学校等

※公立・私立を問いません。外国人学校（高等学校相当）からもご応募いただけます。

※クラス、部活、委員会等の活動も対象となります。

実施時期

2023年5月1日(月)～2024年3月22日(金)

応募方法

次のURLまたは右のQRコードからオンラインフォームをご利用ください。

<https://www.kifjp.org/student/highschool>



受付期間

2023年4月3日(月)～2023年12月22日(金)

※企画書の提出からプログラム実施の可否のご連絡まで1か月程度のお時間をいただいております。企画書は余裕をもってご提出ください。

※募集校数に達し次第、受付を終了いたします。

※講師や内容については、お気軽にご相談ください。

費用

講師への謝金・交通費等は、原則として当財団が負担いたします。

※謝金を伴う実施は1校につき年間1件とさせていただきます。

※学校に関連予算がある場合は、講師への謝金・交通費等をご負担ください。

※ワークショップの実施にあたっては参加者や講師の人数により、一部謝金のご負担をお願いする場合があります。

※できるだけ多くの学校にご参加いただくため、初めてお申込みいただく学校を優先し、当事業で5回以上講師派遣を行った学校のお申込みについては、他校を優先させていただく場合があります。

講師紹介

財団で講師をお願いした方々等のインタビュー動画を右のQRコードで読み取り、ご視聴いただけます。講師の派遣にあたっては、下記の方々に限定せず、プログラムの希望を踏まえて候補を探します。HPは「神奈川 高校派遣事業」で検索してください。



1



矢野 デイビッド

ミュージシャン、一般社団法人Enije代表、明星大学客員講師

ガーナ出身。日本人の父とガーナ人の母との間に生まれ、ガーナで起きた暴動事件の影響により6歳から日本に移住。主な講演テーマは、アイデンティティ、マイノリティ、人種差別、国際交流、異文化共生など。

2



エソダ バスネット

翻訳・通訳者、国際理解講師

ネパール出身。留学生として2005年に来日。横浜国立大学・大学院で国際協力分野の博士課程単位を取得し、その後、国際理解、ジェンダー、キャリア教育や多文化共生などをテーマに高校や大学などにおいて日本語や英語で講演を多数行っている。

3



上條 直美

認定NPO法人開発教育協会 (DEAR) 理事、生涯学習コーディネーター

大学生時代に国際協力と開発教育に出会い、ライフワークとする。青少年教育や開発教育の分野で仕事、ボランティア活動に長年携わる。開発教育協会では、教材開発やファシリテーター研修などに関わる。

4



星野 ルネ

漫画家、タレント、放送作家

アフリカのカメルーン共和国出身。4歳の時に来日後、兵庫県姫路市で育つ。放送作家を中心にメディア方面でも個性を活かし活躍中。独特の関西弁のトークと発想力で新鮮な笑いを見だし、幅広い層を対象とした講演多数。

5



ビオリーナ ニコロヴァ

マーケティングプランナー、異文化理解講師

ヨーロッパ数か国に住んだ経験があり7か国語を操る。15歳で来日、高校と大学を卒業。日本の大手メーカーで8年間マーケティングに従事し、2019年に独立。現在は日本全国の地産産業マーケティングプランナーとして活躍中。

6



金 成東

ワンダーファイ株式会社 事業開発ディレクター

神奈川県生まれ。神奈川朝鮮中高級学校、横浜国立大学工学部卒。大手総合商社に7年間在籍し、インフラ建設案件に関わり約20か国を訪れる。その後、「違うことが面白い」と思える教育を実践すべく、教育スタートアップにてアプリ開発に関わる。

7



豊田 らま

早稲田大学 非常勤講師、東洋大学 客員研究員

シリアのダマスカス出身。ダマスカス大学で土木工学を専攻、横浜国立大学大学院で修士号・博士号を取得。高校、大学やカルチャーセンターなどでアラビア語、イスラム文化理解や在住外国人としてのご自身の経験などを講演形式で発信中。

8



佐々木 聖壘

多文化ユースプロジェクト、自治体職員

中国瀋陽市出身。中学校卒業後に来日。フリースクールに一年間通ったのち、高校、大学へと進学した。横浜市の公務員として勤務する傍ら、外国につながる子どもたちの進路や学習支援を行う「多文化ユースプロジェクト」のメンバーとして活躍中。

9



ファム ティ ビエン テュイ

株式会社TPRESE 社長

2006年に留学生として初来日。東京工業大学・大学院で経営工学を専攻。修了後日本企業に勤務し、3年後独立。外国人材を企業に紹介する会社を設立し社長に就任。日本とベトナムの架け橋としてベトナムの文化や言葉の理解促進に努めている。

10



喬 禹 翔

大学教員／元全日本中国人留学生学友会副会長 横浜地区会長

中国に生まれ、中学校から日本語を習い始めて大学卒業後、日本の大学院への進学を決意して来日。大学院を卒業後、日本の良さを多くの中国の学生に伝えたいと思い、帰国して大学で教員を務める。現在、中日両国の若者が交流できる場づくりを目指している。

11



柳 晴実

NPO法人外国人住みやすいサポートセンター事務局／第12期外国籍県民かながわ会議委員

大阪で生まれた在日朝鮮人3世。小・中・高と朝鮮学校で学び、大阪の公立学校で韓国朝鮮につながる児童生徒に韓国朝鮮の言葉や文化を伝える講師として15年間活動。現在は神奈川県NPO団体で外国籍住民のすまいや生活をサポートしている。

12



オクサーナ・ピスクノワ

語学講師／ウクライナ避難民支援者

ウクライナ・ドネツク州生まれ。1996年に来日。2014年ロシア軍によるクリミア・ドンバス侵襲後、遠く離れた日本から祖国ウクライナの文化を伝えるため、イベントや講演会などさまざまな活動を行っている。2022年2月のロシアによるウクライナ侵襲後は、ウクライナの支援に奔走。現在、横浜市を拠点に避難民のサポートに尽力している。

13



萩原 カンナ

カンボジア語（クメール語）通訳者／カンボジア難民出身

内戦による強制労働政権の元で両親を亡くし、幼少期に親族と共に来日。日本で教育を受けた経験を活かし、在日カンボジア人の役所などでの行政通訳、技能実習生の通訳、日本語指導協力者としてサポートを行う。カンボジアと日本の架け橋になれるよう奮闘中。

14



漆原 比呂志

一般社団法人JLMM 事務局長／NPO法人アルベナムセンター 地域連携コーディネーター

神奈川県生まれ。国際協力NGOのJLMMからカンボジアとベトナムに6年間派遣され、現在は事務局長として日本からの支援を行う。2011年から10年間、カトリック東京ボランティアセンターにて東日本大震災の被災者支援にも関わり、現在に至る。

15



赤坂 むつみ

認定NPO法人難民支援協会 渉外チームマネージャー

大学院修了後、日本国際ボランティアセンター (JVC) のラオスにて森林保全担当として村の森を守るための支援活動を行う。帰国後、日本でのシュタイナー教育活動と学校法人化に参加。2014年より現NPOで、難民のための定住支援や政策提言活動を行う。

16



小波津 ホセ

NPO法人日本ペルー共生協会 理事長／生鮮果実輸入商社営業部長

ペルー共和国リマ市生まれ、8歳で初来日。ペルー人父、日系人母を両親に持ち、幼少期から異なる空間・文化・言語の中で生活。来日後、日本語習得に苦しみながらも現在では日本のペルー人コミュニティを支援。また、生鮮果実の輸入を通して日本と中南米社会の発展へ寄与。

実施カテゴリー

- 国際的に活躍するNGO／NPO 関係者や学識経験者等の講演のほか、少人数での参加型・対話型のワークショップや留学生とのディスカッションなどを実施しています。
- 対象の目的に応じて、下記の **A** ～ **E** のカテゴリーに応じた企画・講師派遣を行います。

CATEGORY

A

「多文化社会をいきる」

神奈川県には約172か国、22万2千人の外国籍県民が生活しています。新型コロナウイルスの感染拡大が続いている間は一時的に人の往来に制限がありますが、日本で働く外国人労働者、日本企業の海外進出、国際結婚等は確実に増えており、国の政策による新たな外国人の受入れも始まったことから、今後も海外から来日し、生活する人々は益々増加すると考えられます。多文化化する社会の現状と、異なる背景を持つ者どうしが共生していくために、何が必要かについて考えます。外国籍県民とのコミュニケーション力を向上するための「やさしい日本語」の講座や演習も可能です。

EXAMPLE

外国につながりのある講師による講演



参加者の声

人と違うところは自分の個性だと思って、色々なことに挑戦しようと思った。



参加者の声

国によって「普通」が全然違うということをととても理解できました。

「留学生との交流・グループワーク」

県内の大学や専門学校にご協力いただき、複数名の留学生を派遣します。出身国や地域の文化や習慣についての紹介、来日目的や将来の夢についてのディスカッション等、少人数でのコミュニケーションを重視したプログラムにより相互理解のためのヒントを学びます。

また、留学生との交流にあたり事前に「やさしい日本語」のワークショップなども可能です。

- 留学生の出身国・地域の指定はできません。
- 使用言語は相談に応じます。(日本語または英語)

EXAMPLE 1

各クラスで留学生による自国の文化などを紹介



参加者の声

出身国の地理や流行など、授業では学びきれないことを知り、楽しくとても良い機会だった。

EXAMPLE 2

来日目的、夢について小グループで意見交換



参加者の声

留学生から見て日本はどう見えているのか等を知ることができた。自分も夢をもって行動できたらいいと思った。

「貧困、平和、人権問題など、地球規模の課題を考える」

グローバル化が進む中、貧困や紛争、人権問題など、国際社会全体に関わる多くの課題が山積、複雑化しています。高校生世代が将来直面する「地球規模の課題」について考えます。



EXAMPLE

世界の格差や多様性を体感するワークショップ



参加者の声

実際に動いて体験することでリアリティを感じることができた。あまり話したことのない人とも交流を深められた。

CATEGORY

C

「グローバルな視野で活躍する人と 出会う・進路を考えるきっかけをつくる」

国外・国内を問わずグローバルな視野を持ち活躍する社会人から、高校時代から現在に至るまでの経験を語っていただき、将来や進路について考えるきっかけをつくります。

EXAMPLE 1

国際協力NGOの講師による講演



参加者の声

普通の高校生だったのに、今では世界を助ける仕事に就いていることは驚いた。私も色々な進路を考えたい。

EXAMPLE 2

ものごとを深く語り合う 「哲学対話」のワークショップ



参加者の声

答えのない問いについて、みんなで考えてみて自分とは違う考え方や物事の捉え方を知り、共有することができて面白かった。

CATEGORY

E

「教員研修」（講演、ワークショップ、フィールドワーク等）

これからのグローバル社会を生きるために必要な力として、語学力に留まらないコミュニケーション能力、主体性・積極性、協調性・柔軟性、異文化に対する理解や次世代まで視野に入れた社会貢献の意識などが挙げられています。生徒の主体的な参加やコミュニケーションを促すワークショップの体験、フィールドワーク実施のための教員向け研修も可能です。

EXAMPLE



外国人コミュニティの
フィールドワーク等



プログラム実施までの流れ

1

企画書のご送付

- 次のURLまたは右のQRコードからオンラインフォームに必要事項をご記入の上、送信してください。

<https://www.kifjp.org/student/highschool>

「神奈川 高校派遣事業」でも検索可能です。

- 企画書提出からプログラム実施の可否のご連絡まで1か月程度のお時間をいただいております。企画書は余裕をもってご提出ください。
- 企画段階でのご相談もお受けしております。お気軽にご連絡ください。



2

実施の可否のご連絡

- 企画内容、時期などにより、ご希望に応じられない場合はお断りすることがあります。
- 応募多数の場合は、本事業により過去に支援を受けた回数の少ない学校を優先します。

3

確認書のご提出

- 日程、講師等の確定後、確認書をお送りします。
必要事項をご記入いただき、ご提出ください。

4

事前打ち合わせの実施

- プログラム内容、当日の進行、機材などについて、実施校のご担当の先生、講師と当財団担当者の三者で事前打ち合わせを行います。
- 事前打ち合わせを行う場合は当財団の事務所（横浜駅から5分）、または講師が指定する場所までお越しいただくようお願いいたします。対面での打合せが難しい場合はオンラインでも可能です。

5

プログラムの実施

- 実施校による司会進行のもと、プログラムを実施します。当日は当財団担当者も同行し、講師のフォローを行います。
- パソコン、プロジェクター、音声機材等の準備、設置、設定は実施校にお願いいたします。
- 当財団の協力による実施である旨、受講者に明示をお願いいたします。また、当財団が実施する高校生向けのプログラムを受講者にご紹介することがあります。
- プログラムの様子を撮影し、広報等に活用する場合があります。
- プログラムの実施について学校ホームページ、広報誌などに掲載する場合にも、当財団の協力による実施である旨、明記をお願いいたします。

6

アンケートのご協力

- ご担当の先生とプログラムの受講者には、プログラム終了後1週間以内にオンラインにてアンケートの実施へのご協力をお願いいたします。アンケートは当事業の改善及び広報等に活用する場合があります。

神奈川県外国人について

- 外国人住民数 222,018人（令和4年1月1日）
全県民9,231,177人の2.41%
- 出身国・地域 172ヶ国（参考 世界の国数：196ヶ国）
- 出身国上位10ヶ国
 - ①中国 ⑥ネパール
 - ②ベトナム ⑦ペルー
 - ③韓国 ⑧米国
 - ④フィリピン ⑨インド
 - ⑤ブラジル ⑩台湾

（神奈川県国際文化観光局国際課調べ）

これまでの実施校について

- 実施校の累計 259校（平成19年度より実施）
 - 実施校の内訳
 - 県立高校…81校 川崎市立高校…3校 横浜市立高校…5校
 - 横須賀市立高校…1校 私立高校…19校
- ※複数回実施している場合は重複してカウントはしていません。



国際交流・多文化共生などの活動をしている

高校生のみなさんの活動をお手伝いします！

「外国人住民の方とコミュニケーションをとりたい」「地域で活動している多文化共生の団体について知りたい」など、部活で活動するにあたっての情報提供や企画の立案など相談に乗りますので、ご連絡お待ちしております。



高校生などを対象としたセミナー情報についてはこちらからインスタをフォロー！

お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人 かながわ国際交流財団 高校派遣担当

住所 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民センター 13階 多言語支援センターかながわ内

電話 045-620-5045

E-mail haken@kifjp.org

HP <https://www.kifjp.org/student/highschool>